

4月26日 音楽サークル Musikverein

4月例会は高円寺の音楽喫茶「ネルケン」に21名が参加し、CDコンサートを実施しました。今回のご担当は吉川 清さん、「今更ながら・・・ですが 皆様の感想を伺いたいと思っている二曲の交響曲演奏を選び『音の流れに身を委ね』と題してプログラムを組みました。」とのご案内文を事前に頂きましたので、全会員に配信致しました。

前半はドヴォルザークで、耳慣らしとして本人がチェロのために編曲し命名した「森の静けさ B133/Op.68-5 変ニ長調」(R.シウ 17歳、2015年のライブ録音)を鑑賞。続いて「交響曲第9番 ホ短調『新世界より』 B178/Op.95」を、J. ビエロフラーヴェク指揮でBBC交響楽団の演奏(2010年のライブ録音)を鑑賞。指揮者のコメントも紹介されましたが、確かに素晴らしい演奏でした。

後半はシューベルトで、最初はゼルキンによる「即興曲 D.935/Op.142-2」(1982年のアンコールライブ録音)を鑑賞。続いて「リヒテルの繰り返しパターン」について心情を吐露するグールド、「テンポの遅い指揮・演奏」について語る吉田秀和、ヴァントの「未完成」演奏について講評する諸石幸生のインタビュー音声を紹介されました。最後は「交響曲第8番 口短調『未完成』D759」を、G.ヴァント指揮、北ドイツ放送交響楽団の演奏を鑑賞。息をのむような圧倒的な演奏に酔いしれました。

今回はライブ録音の素晴らしさと共に、多彩な視点から良い音楽の本質に迫る内容で、充実した2時間でした。ご説明資料もコメンテーター4人の評論が入った読み応えがある力作で、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。CDコンサート後は四川料理店で13人が参加して懇親会を開催。例会の内容を含め会話も弾み、大いに盛り上がりました。